

製品名: TEAD1 (8A7) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe18770**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,IP,IF-P
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02%新型保存料 N、50%グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:200-1:1000,IP 1:10-1:50,IF-P 1:200-1:1000
分子量	48kDa

抗原情報

遺伝子名	TEAD1
別名	NTEF1; Protein GT IIC; REF1; TCF13; TEA domain family member 1; TEAD1; TEF1; Transcription factor 13; Transcriptional enhancer factor TEF1;
遺伝子 ID	7003.0
SwissProt ID	P28347
免疫原	ヒト TEF1 の合成ペプチド

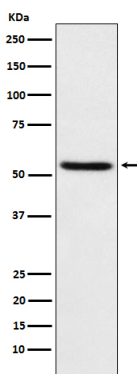
背景

Hippo シグナル伝達経路において重要な役割を果たす転写因子。Hippo シグナル伝達経路は、増殖を抑制しアポトーシスを促進することで、臓器の大きさの制御と腫瘍の抑制に関与する経路です。この経路の中核はキナーゼカスケードで構成され、MST1/MST2 は、その調節タンパク質 SAV1 と複合体を形成し、LATS1/2 はその調節タンパク質 MOB1 と複合体を形成し、リン酸化されて活性化されます。LATS1/2 は、YAP1 がん性タンパク質と WWTR1/TAZ をリン酸化して不活性化します。YAP1 と WWTR1/TAZ の遺伝子発現を媒介することで作用し、それによって細胞の増殖、遊走、および上皮間葉転換 (EMT) 誘導を制御します。SPH および GT-IIC のエンハンサー (5'-GTGGAATGT-3') に特異的かつ協調的に結合し、in vivo で細胞特異的に転写を活性化する。活性化機能は、細胞特異的転写中間因子 (TIF) を介した制限的な活性化によるものと考えられる。心臓発生に関与する。M-CAT モチーフに結合する。

研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達

画像データ



HeLa 細胞溶解物中の TEAD1 発現のウェスタン プロット解析。